生活プロデュース学科

職位	役職	氏名
教授	学科長	簗瀬　千詠
教授	医療事務・情報コース主任	小泉　　綾
教授	インテリアデザインコース主任	水上　　裕
教授	フードコース主任	吉川　光子
講師		泉屋　咲月
講師	ファッションコース主任	奥脇　菜那子
講師	子どもサービスコース主任	清水　一毅
講師		二見　総一郎

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	教授
教員氏名	簗瀬　千詠

1. 教育の責任（何を行っているか）

2023年度の担当科目は別記(教務課作成)の通りである。
(1)「ゼミナールI,II」:テーマは「映画で学ぶ社会学～SDGsで知る世界のいま～」。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会学的な視点から、作品制作者の意図や描かれたテーマとその背景を探り、作品を論評することができる。②テキストを活用し、SDGsを切り口として実社会における諸課題を知り、自分のキャリアを考える上で参考にすることができる。③コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけ、就職活動に自信を持って臨むことができるようになる。
(2)「オフィスワーク演習」:自身の約20年間の企業勤務経験を活かした授業である。この科目は、学科の共通必修科目であり、科教員が代々作成してきた学科独自のテキストの改編も担当している。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会人としての常識や心構え、職場で必要なビジネスマナーが身につく。②練習問題やロールプレイングに繰り返し取り組むことで、臨機応変に自分で考え、話し、書く力がつく。③職場で使われるコミュニケーション手段の特徴を理解し、使いこなせるようになる。④インターンシップや就職活動に自信を持って臨めるようになる。⑤授業で身につけたことは、就職後も役に立つ。
(3)「生活とSDGs」:2023年度から必修科目となった。授業の到達目標は以下の通りである。①国連のSDGs(Sustainable Development Goals)17のゴールの内容を理解し具体的に説明できるようになる。②SDGsのものさしを使って、自分の周りの社会課題を見つけその原因や解決策の選択肢を考えられるようになる。③自分の意見を持ち、他者の異なる考え方を客観的に聞くことができるようになる。④ SDGsの視点で社会や企業活動を捉える経験を重ねることにより、1年生後期のインターンシップや就職活動にむけた心の準備ができる。
(4)「現代女性の社会学」:授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①現代に生きる女性が抱える様々な課題について客観的に考察できるようになる。②卒業後のライフキャリアプランについて、具体的な見通しを持つことができるようになる。③国連SDGs(Sustainable Development Goals)への理解を深め、地球規模の課題解決に必要な視点や自分自身にできることを考えられるようにする。④グループワークを通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が身につき、就職活動に活かすことができる。
(5)「ライフキャリアプランニング」:学科教員全員が関わるオムニバス科目であり、主担当は学科長であるが、私は15回中5回を担当し、金融リテラシー教育、消費者教育を担っている。特に、2回にわたり実施する「生活設計マネープランゲーム」は、学年全員がグループでゲームを楽しみながら今後の人生で起きるライフイベントとお金の計画について学ぶ機会を提供している。授業評価アンケートでも自由記述欄で学生が言及するなど好評を得ている。
(6)「女性のライフスタイル論」:学科の共通必修科目で主担当は学科長であるが、オンデマンド動画の卒業生インタビュー、年金や失業保険などの社会保障制度について社会人として必要な知識を教えている。
(7)「湘北スタートアップセミナー」:この授業は、リベラルアーツセンターが開講する、全学科の入学予定者全員を対象とした初年次教育科目である。私はセンター長として、センターメンバーと協力しながら授業内容を検討、企画、実施している。授業の具体的到達目標は以下の通り。①大学と高校の違いを理解し、入学後2年間での学習目標を明確化することができる。②社会で必要とされるコミュニケーション力を理解し、発展させるための方法論が理解できるようになる。③大学で学ぶ上で必要となる、基本的なICT活用スキルを身につける。④湘北で推進するSDGs教育の基礎となる知識を、講義とゲームを通して身につける。
(8)「生活に役立つ教養とSDGs」:私は、22年度からリベラルアーツセンター長を拝命し、湘北生に必要な教養教育とは何かについてメンバーと共に議論を重ねてきた。そこから発案されたのが、BL学科の専任教員が各自の各専門分野の基礎的な知識を、相手学科の学生に向けて教授する、オムニバス、フルオンデマンドの本科目と「ビジネスに役立つ教養とDX」である。私はL学科側の責任者として、L学科専任教員全員の協力を得て、ID(Instructional Design)、マイクロラーニングを採用した授業をB学科の学生を対象に開講した。
　以上の通り、私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生に様々な「気づき」を与え、一人ひとりの自立を促してより良い人生を歩めるように導くのと同時に、自分の能力や才能を他者のために惜しみなく使える人間を育てることにある。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において「社会人基礎力を身につけること」を重視している。社会人基礎力とは、以下のような力である。すなわち、主体的に取り組む力、他者に働きかける力、実際に行動する力、課題を発見する力、計画的にものごとを進める力、新しいことを創造する力、自分の考えを他者が理解できるように発信する力、人の意見を聴く力、異なる意見や立場を理解する力、状況を客観的に判断できる力、ルールを守る力、ストレスをうまくコントロールする力である。これらの様々な力は、卒業後、長い人生を生きていく上で欠かせないものである。在学中のあらゆる場面を教育機会ととらえ、学生自身が「気づき、学び、身につける」ことを大切にしている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当授業において、次のような工夫・方法を実践している。
(1)「ゼミナールI,II」：文部科学省選定・特選に選ばれた内外の優れた映画作品を鑑賞し、社会、歴史、家族、結婚、働き方、ジェンダーなど社会学的視点から読み解いていく。映画の題材から各自で興味関心を持ったテーマを設定し調査と考察内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションしてもらう。同じ作品でも、人によって感じ方やとらえ方が異なるという発見を共有し、そこから自分自身のライフデザインについても考えさせている。また、官公庁や企業の研修でも採用されている「2030SDGsゲーム」を通じて、地球規模の課題を「自分ごと」とし、自分は社会にどう貢献していくかについて同世代の仲間と一緒に考えてもらうようにしている。教員が教科書で何かを教え込むのではなく、色々な専攻コースに所属するゼミ生が「多様な体験を共有し、互いに影響しあって伸びていく」こうしたゼミを目指している。
(2)「オフィスワーク演習」：就職活動がスタートする直前の1年次後期に開講しており、講義と演習を組み合わせ、将来様々な職場で働く際に必要となる社会常識やビジネスマナーを身につけることを目指している。敬語の使い分け、礼儀作法、ビジネスレターやメールの基本マナー、来客応接や電話応対を網羅し、応接のロールプレイングなどを通じ、学んだことが確実に身につくよう指導している。
(3)「生活とSDGs」：SDGsに関わる課題は国際関係から身近な生活に至るまで幅広く存在する。このため、教員が常に教材探しや外部研修受講を通じて新しい情報を得て授業に活かせるよう工夫を重ねている。教材としては、SDGs.TVが提供する国連やNPO,NGOなどの機関が作成した信頼できる動画の活用、「SDGsババ抜き」や「2030SDGsゲーム」といったグループワークの活用、若手起業家で農業の技術革新に取り組む豊永翔平氏を特別講師として招聘し気候変動の実態と農業の現場の声を聞く機会を作るなど、学生にSDGsの目標達成を「自分事」として捉えてもらう授業を目指している。2020年以降、教員が取得したSDGs関連の資格は4、外部研修参加も積極的に行ってブラッシュアップに努めている。
(4)「現代女性の社会学」：「社会学」の基礎知識をとり入れつつ、現代女性の抱える様々な課題について具体的に考えさせる。課題図書リストを提示し、期間中に各自一冊を図書館で借りて800字程度の要約と感想を提出させている。各回の授業では以下のようなアクティブラーニングの手法を用いている。①学生が周囲の大人にインタビューする宿題を三回にわたり課し、女性のライフコース、結婚のメリット・デメリット、子育ての経験談を取材させる。学生はそれらの材料をもとに、グループディスカッションで同年代の仲間と活発に意見を出し合う。個別のケーススタディから、社会全体に視野を広げ、卒業後のライフイベントをめぐる課題と、その背後にある問題や社会的要因を理解し客観的に考察する。②テレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」を教材に、家事は無償労働か？という主題はもとより、様々な登場人物の生き方にフォーカスし社会の中に存在する多様な生き方に気づかせ、グループディスカッションを実施する。③教員がファシリテーター資格を有する2030SDGsゲームを体験し、地球規模の課題解決に社会の個々の構成員がどのように関わり、どのような役割を果たすべきか、楽しみながら考える機会を提供している。
(5)「ライフキャリアプランニング」：金融リテラシー分野の5回について、家計簿アプリの活用による課題、生活設計マネープランゲームのグループワーク実施などを行っている。
(6)「女性のライフスタイル論」：卒業生のインタビュー動画作成（主担当は学科長）、自分の担当回では、国の女性政策や社会保障制度の基本的な事項について、あえて官公庁のウェブサイトを学生に閲覧させることにより、一次情報を得ることや読み取ることの重要性を認識させている。
(7)「湘北スタートアップセミナー」：2023年度に私が担当したのは、「SDGsを通して世界を知る」というプログラムである。2コマ180分を使い、SDGsの基礎知識の確認、「SDGs新聞ワーク」、「2030SDGsゲーム」のワークショップ体験を通じ「学生たちが学んだことを社会課題の解決にどう活かせるか」入学後の学びやキャリアデザインがSDGsとリンクできるよう指導している。
(8)「生活に役立つ教養とSDGs」：私は、第15回のうち最初の2回でSDGsの基礎知識を教える回を担当し、第3回以降の理解の土台となる学びを提供している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の学生による授業評価アンケート結果について
「SDGsと社会デザイン」
この科目は、1年次後期選択科目で、今年度新規に開講したSDGsの学びの応用編である。時間割枠の関係で、ファッションコースと医療事務・情報コースの学生しか履修できなかったため、最終的に単位認定できたのは13名であったが、少人数の利点を活かし、手厚い指導や双方向の授業と、ゲスト講師によるワークショップや企業のオンライン講座受講など、様々な実験的試みを導入することができた。アンケート結果は、設問1、4、5が3.6（学科平均3.41～3.47）、設問2, 3が3.5（同3.43）、全体3.56（同3.44）といずれの項目も高く、自由記述欄にも、回答した9割の学生から、「グループワークとプレゼンテーションを多数実施したことでPPT作成力や発表力がついた」、「ゲスト講師によるアイデア出しワークを通じて社会課題解決の考え方を学ぶことができた」、「企業による授業で視野が広がった」「前期と後期のSDGsの授業を通じ自分に何ができるかわかった」といった前向きなコメントを得ることができた。学生のタイプが異なり、学力差もそれなりにある2コース混合という稀有なクラス編成であっても、上記の効果を得られた今年の経験を、24年度でも活かしていきたいと考えている。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組として、相互授業参観をはじめとする学内のSD、FD研修に積極的に参加している。また、社会の変化は著しく速いスピードで進んでいることから、教壇に立つ者として、新たな知見を学外から吸収する機会を意識して作るように努めている。
【2023年度の取り組み】
1. 2023年度は、神奈川大学大学院が開講する「YOXOアントレプレナー育成プログラム※」全21回を受講、①ソーシャルデザインと価値創造、②技術経営とイノベーション、③国際ビジネスの三分野について、基礎から応用を学ぶとともに、企業の中堅で活躍する社会人受講生や、多彩な講師との人脈づくりも行った。※2023年4月15日～9月16日、毎週土曜日10時～13時、全21回、神奈川の四大学（神奈川大学、横浜国立大学、横浜市立大学、関東学院大学）の教員、大手企業役員（三菱重工、日揮）、NPO事務局長などが講師を務めた。本プログラムを通じて知遇を得た、SDBL（社会デザイン・ビジネスラボ）事務局長の三尾氏には、後期授業「SDGsと社会デザイン」にゲスト講師として登壇を依頼し、「型にはまらないアイデアを型にはめて考えるワーク」を学科の1年生に体験してもらうことができた。
2. テキストの執筆
2023年8月から2024年2月に、共著で「学生から社会人のためのキャリアデザインとSDGs」を執筆、2024年4月にDTP出版から刊行の予定。本学の授業でゼミナールやキャリア系科目のテキストとして使用予定。

【今後の目標】
1. 短期目標
　1）SDGsのファシリテーターとしての経験と、アートマインドコーチングの対話のスキルを活かし、アクティブラーニングの効果を高め、自己肯定感と自主性を引き出す教育の実践
　2）湘北版SDGs教育のさらなる充実と高大接続教育での貢献
　3）消費生活アドバイザー資格を活かし、成人年齢引き下げ後の若年層を対象とした消費者教育の充実
2. 長期目標
　1）卒業後、学生が直面する正解がない様々な課題に対し、諦めることなく立ち向かえるレジリエンスを身に付けられるような教育の実践
　2）今日的課題を学びに結び付けるような教材の開発
以上

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜2限 ヘルスケア業界研究（医（他））簗瀬　千詠】
この科目は、医事コース生に特化したキャリア教育科目と位置づけ、医療・福祉業界で働く卒業生や管理職の方々を招聘し、実際の仕事内容や働くマインドについて学ぶ機会を多数設けた。また、障がい者が主役のドキュメンタリー映画を視聴して、考えさせたり、「グリーフケア」についても扱った。設問3、5、5は3.69ポイント、設問8、9は3.75ポイントと学科平均を上回る結果となった。また今年度からコース主任が交代し、小泉先生との共担科目となり、19名を手厚くフォローできたことも高評価を得た理由だと推測しています。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【】
ゼミナールⅠ　水3、4限（簗瀬）Q10のポイントが3.22と、昨年度3.60比0.38ポイント下がってしまった。授業そのものは同じ内容を扱っていたので、その要因として考えられるのは、学生一人ひとりとじっくり向き合う時間が、授業時間外にとれなかったことだと思われる。今年のゼミ生は大人しいタイプが多いので、後期は教員側から積極的に声掛けしていきたい。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜4限 SDGsと社会デザイン＿（全）【簗瀬　千詠】】
卒業生やゲスト講師、企業のSDGsの取り組みなど多様なメニューを用意し、聞く、調べる、考える、発表するというサイクルを回すことで、学生たちがSDGsを自分ごととして捉えることができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜3限 ゼミナールⅡ＿全【簗瀬　千詠】】
例年よりも満足度が低かった原因としては、後期前半を湘北祭の活動に充てたため、前期のように映画を観て皆で感想をシェアしてプレゼンしたり、グループワークで話し合う時間がとれず、11月以降は卒業研究のための個人ワーク（調べ学習）を中心とせざるを得なかったことが原因と思われる。ただし、久しぶりに対面実施となった湘北祭では、ゼミメンバー全員が役割を分担し、フードドライブというSDGs達成に直結する活動を実践できた。その意義にゼミ生たちが気づくのは、おそらく社会人になってからではないだろうか。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
✔	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

2023年度学長賞受賞
①リベラルアーツセンターの教員として「湘北スタートアップセミナー」の企画、運営に対しリベラルアーツセンター全員が受賞
②生活プロデュース学科の教員として「生活に役立つ教養とSDGs」オンデマンド授業の企画、運営、その他の活動に対し、生活プロデュース学科全員が受賞

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203505	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204005	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
前期	生活プロデュース	2	30250501	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2	30250502	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R4288001	生活とSDGs
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	26251501	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	26251502	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	R5289501	SDGsと社会デザイン
前期	生活プロデュース	1	R5280001	ヘルスケア業界研究

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R6LA0901	いのちをめぐる科学技術
後期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R6LA1101	湘北リベラルアーツⅠ
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（総合）	1・2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203504	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204004	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R5204501	ライフスタイルマネジメント
前期	生活プロデュース	2	30250501	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R4288002	生活とSDGs
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	26251501	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	26251502	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	R5289501	SDGsと社会デザイン

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	教授
教員氏名	小泉　綾

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科に所属しており、主に健康教育、運動分野に関する科目を担当する専任教員である。学科では、主として運動、健康、介助に関わる科目を担当している。今年度より医療事務・情報コースの主任を担当し、コースの授業の調整や外部講師招聘の調整を担当している。
また、リベラルアーツセンターに所属し、主としてリベラルアーツ科目の必修科目であるスポーツ科目（生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ）の取りまとめを担当している。

主な担当科目や課外活動については、以下の通り。

1）生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ
以下のような内容を目標としている。
①自発的にスポーツに取り組むための知識や方法を理解する。
②身体運動を行うことで自分の身体や精神の状態を把握し、自己の健康保持増進に役立てられるようになる。
③他者と協力しながら一緒にスポーツに取り組むことを通じて、社会性を身につけコミュニケーション能力を高める。
④感染症、生活習慣病、救急法など、普段の生活に即した健康に関わる知識を深め、健康的な生活が実践できるようになる。

2）健康科学
以下のような内容を目標としている。
①健康の重要性を理解し、健康に関わる身体の構造や機能について理解する。
②さまざまな体内リズムについて学び、生活習慣や健康とどのように関係しているかについて、科学的に理解する。
③学びの内容から自分の日常生活を見直し、自他の健康を維持する方法を身につける。
④「健康管理能力検定2級」を受験し、合格を目指す（任意）。

3）からだのしくみと機能
以下のような内容を目標としている。
①身体の基本的な構造や仕組みについて、解剖学的観点から理解する。
②身体の基本的な機能について、生理学的観点から理解する。
③さまざまな疾病（病気）について学び、治療や予防方法の基礎について理解する。

4）サービス介助演習
以下のような内容を目標としている。
①サービス介助士に合格するための知識・技術を習得する。
②相手の立場を考え行動できる「ホスピタリティ・マインド」を向上させる。
③相手にとって安全で安心できる「正しい介助技術」を身につける。
④障害の社会モデルを理解し、普段の生活の中で何が社会の障壁になっているのかについて気付く。

5）課外活動の指導
永年に渡って学科の学生委員を担当し、学科における学生指導の主担当をしている。
課外活動では、スポーツ大会実行委員会の顧問を担当し、各月に行うミニスポーツ大会や全学行事「スポーツ大会」や学内でのスポーツ活動をサポートしている。
体育館や多目的グラウンドの施設管理も行なっており、授業や課外活動で安全かつ有意義な活動できるように留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が主体的に考える能力を磨くことや、健康的な生活や行動を選択できる能力を磨くことである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の5点を重視している。

1） 自らの生涯にわたる健康ついて考え、生涯楽しく充実した生活を送るための知識や方法、能力を身につけること
2） 知的好奇心を満たすことや、学びを継続することの楽しさ重要性ついて、実感を伴って知ってもらうこと
3） 教員と学生が「良好な人間関係を築く」ということが、良い教育を行う基盤となること
4）一人ひとりの学生に対し平等に寄り添い、学生指導を丁寧に行うこと
5）即物的ではない「自らの価値観」を育む教育を行うこと

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業や課外活動での指導において次のような工夫を行なっている。

1）生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ
・授業中に怪我や事故が起きない準備や配慮をする。
・その日の授業で実施する授業内容や運動の「意味」について丁寧に解説する。
・実際の授業内容に直接活かせる課題で予習復習を行う。
・授業で扱った内容を自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポート課題や筆記試験などで確認をする。
・できなかったことができた時、達成感や喜びを分かち合えるような授業展開を心がける。

2）健康科学
・最新の知識やデータをもとに健康について科学的に捉えられるような授業を展開する。
・学生の意見や感想、疑問について、Googleフォームを使って収集し、まとめたものを次の週に授業でフィードバックしている。
・授業で扱った内容を自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポートや筆記試験などで確認をする。

3）からだのしくみと機能
・解剖学・生理学の専門的な内容をふんだんに扱う授業であるため、難しい内容はなるべく理解しやすいように説明を工夫する。また、具体的な例を教材に盛り込む。
・解剖生理学について、最新の知識やデータをもとに科学的に捉えられるような授業を展開する。
・学生の意見や感想、疑問について、Googleフォームを使って収集し、まとめたものを次の週に授業でフィードバックしている。それらは、受講者が理解できているかを知るための指標にもなっている。
・受講する医療事務・情報コースの多くの学生が、将来目指す医療関係の職業に活かせるような内容を授業に盛り込む。

4）サービス介助演習
・障害者や高齢者の視点で他者に配慮できる介助技術を目指す指導を心がける。
・障害の社会モデルを主軸とした授業展開を行い、ノーマライゼーションについて知ることで物事を広い視野で捉えることの大切さについて気づきを促す。

5）課外活動の指導
・施設設備の利用にあたってルールを守ることを指導している。
・事故を未然に防ぐことや、感染症対策も含め、安全にスポーツ活動を行うことへの指導と配慮、準備をしている。
・スポーツ施設を利用する学生に積極的に声かけをし、コミュニケーションを密に取ることを心がけている。
・コロナ禍などが原因となり活動が衰退してきている団体への声かけをしている（これに関しては、学校全体の大きな課題でもあると考える）。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

全体的な総括で述べると、2023年度の学生による授業評価アンケートでは、概ね学生からの評価は良かった。
学生は、コロナ禍を経てオンラインやオンデマンドの利用も随分慣れて来ている。授業では、それらを効果的に取り入れつつ、3であげたような具体的かつ分かりやすい授業展開の工夫や、Googleフォームを使って感想や意見を集めフィードバックを丁寧に行うことを心がけた。
これらの積み重ねが功を奏したのか、学生からのコメントを見ると概ね満足度も高かった。よって、おおよそ目標は達成したように思う。
ゼミナールの授業評価が顕著であるが、学生との良好な人間関係を築くことやコミュニケーションを密に取ることは、重要であると感じる。就学支援や就職活動を個別指導で親身に行った分、学生の満足度は比較的良好となったのだろうと推察される。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

今後の授業改善への取り組みとしては、以下の4点について取り組むこととする。

1)授業では、引き続き、受講者とのコミュニケーションを丁寧に行うことを心がける。Googleフォームなどのツールを効果的に使用し、受講者の理解度や疑問・質問などをなるべく拾いあげ、フィードバックをする努力をする。
2)相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加をする。それらを通じて、自らの授業を客観的かつ俯瞰的に捉え、ブラッシュアップできるよう努力を継続する。
3)学会や研究会での研究活動を積極的に行い、他大学の教員や教育と積極的に接点を持つ機会を増やす。
4)スキーを通じた社会的活動の幅を広げ、自身の教育に還元する努力をする。
・学生だけでなく子供～高齢者への指導を積極的に行う。
・公認スキーパトロールとしての活動の幅を広げる努力をし、救急処置や搬送技術について知識や技能を深める。

今後の教育に関する短期目標、長期目標は、それぞれ次の通りである。

Ⅰ.短期目標
1)授業教材のブラッシュアップ(最新の話題やデータを積極的に使う、PPTの工夫など)
2)オンラインやオンデマンド授業の積極的・効果的な導入を継続する(サービス介助など)。それに並行して、対面で行う実技演習科目の充実も計る。

Ⅱ.長期目標
・学科の専門科目やLA科目としてのスポーツ科目、健康教育関連科目の充実(選択科目の導入など)

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜2限 からだのしくみと機能（医）小泉　綾】
昨年度より復習内容や宿題を増やし、次の週にフィードバックを行った。
Googleフォームを多用し、意見や質問の徴収に力を入れ、講義形式を取りながら双方向型の授業を目指した。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜1限 生涯スポーツと健康Ⅰ（P）小泉　綾】
改善点としては、もう少しeラーニングコースを多く利用しても良かった。
また、連絡や説明についても受講学生のレベルに合わせた情報提供が不足していた部分があったように感じるので、工夫が必要。

■後期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【集中講義 サービス介助演習A＿（全）【小泉　綾】】
開講期の見直しが必要か？

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜4限 生涯スポーツと健康Ⅱ＿M【小泉　綾】】
自主的にスポーツに取り組む姿勢を養うことと、1・2年合同クラスでの実施でどのような授業展開をするか（新しい取り組み）。アンケート結果を見ると、どちらも比較的上手くいったと思う。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	2	22LA1009	生涯スポーツと健康Ⅱ（留）
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0805	生涯スポーツと健康Ⅰ
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0806	生涯スポーツと健康Ⅰ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA1005	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA1006	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203503	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204003	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	22244502	サービス介助演習B
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	22244501	サービス介助演習A
後期	生活プロデュース	1	31218501	健康科学
前期	生活プロデュース	1	R5280001	ヘルスケア業界研究
前期	生活プロデュース	1	R2281001	からだのしくみと機能

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	2	22LA1009	生涯スポーツと健康Ⅱ（留）
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0805	生涯スポーツと健康Ⅰ
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0806	生涯スポーツと健康Ⅰ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA1005	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA1006	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ（総合）	1・2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203502	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204002	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	22244502	サービス介助演習B
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	22244501	サービス介助演習A
後期	生活プロデュース	1	31218501	健康科学
前期	生活プロデュース	1	R5280001	ヘルスケア業界研究
前期	生活プロデュース	1	R2281001	からだのしくみと機能

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	教授
教員氏名	水上　裕

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学生活プロデュース学科に所属し、インテリアデザインコースのコース主任である。主にインテリアや住環境に関する科目を担当し、インテリアデザインコースをマネジメントしている。一方、ワークライフバランスを充実させつつ社会で活躍するための基盤となる学科共通科目や社会人基礎力を高める科目を担当している。
2024年度の担当科目は、別記のとおりである。
生活プロデュース学科は、生活に関わる専門知識と社会課題への関心を持ち、他者と協働することができる人材を育てるため、学生が社会人になる前に、快適な住まいや安全な住環境の知識を身につけ、インテリアがコーディネートできるよう指導している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。
1)学生が健康的な暮らしに必要な知識と技術を身につけ、自己管理力を磨き続けること。
(学生は、自らの安全、安住、健康管理を心がける生活習慣を身につける)
2)学生に目的意識を持たせ、目標をたててゴールに向けて努力し、到達することができるようサポートすること。
(学生は、学生生活を充実させ、専門能力を高めることで自信をつける)
3)生活者の立場を基盤としつつ、ビジネス社会で活躍できる実践的な内容を優先すること。(学生は、就職活動での自己PR力を高めるとともに未来を見据えた行動を行う)

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育の理念を達成するため、次のような授業を行っている。

「環境と暮らし」の授業では、拙著「インテリア・ガール」を活用し、住環境や住宅建築の理解を深め、健康で快適に暮らすための住まいと住まい方が身につくようグループワークや発表会を行う。学生は卒業後も役立つオリジナルノートを完成させる。

「インテリア実技」の授業では、動作寸法や家具寸法などのスケール感を身につけ、間取りの作図や立体表現ができるようになる。

「インテリアコーディネーションⅡ」の授業では、インテリアデザイン技能検定合格をレバレッジに設計技能を磨く。学生は設計技術を身につけること、時間内で仕上げることの2点について、段階的に合格するための力を身につける。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2年後期科目「環境と暮らし」では、オリジナルテキストの活用だけでなく、最新の専門書・専門雑誌内容を提供し、学生の興味関心を引き出すよう内容の充実を図った。学生の学習度を見ながら有用な情報を提供し、集中力を高めた。授業評価アンケートにてその成果が確認できた。

1年前期科目「インテリア実技」では、住宅の間取りが作図できるようになり、立体表現技法、着彩技法も身につけた。ルーブリックを用いて身につけたことを確認した。

1年後期科目「インテリアコーディネーションⅡ」では、インテリアデザイン技能検定合格を目標に掲げた。検定では、製図の技術を身につけることだけではなく、時間内に仕上げなければならないため、集中力を高めるというレバレッジ効果があった。インテリアデザインコースの学生全員が受験し成果を確認した。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。今後の教育に関する目標は次のとおりである。
1.学修成果の見える化を実践する（学生の発表、プレゼンテーション）。
2.インテリア実技 において、ルーブリックを更新し、学習成果を上げる。
3.資格取得をレバレッジに学力向上、合格率アップを目指す。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜1限 インテリアコーディネーションⅠ（イン）水上　　裕】
授業アンケートQ2「予習・復習への取り組み」において、学科平均値が2.16に対し、本授業では3.33という高い値であった。また、Q3「自己評価」は学科平均値が3.45に対し、本授業では3.83という値であった。一方、Q9「授業の満足度」について、学科平均が3.48に対し、本授業では3.83と高い評価であった。
このことから、学生は目標に向けて熱心に興味をもって取り組み、手応えや成果があったことが読み取れる。1年前期ということもあり、2つの課題とボリュームに無理の無い計画であったことが評価につながり、学ぶ楽しさや学ぶ意義等も実感してもらえたと思われる。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜3限 環境と暮らしA(イン)水上　　裕】
授業アンケートQ2「予習・復習への取り組み」において、学科平均値が2.16に対し、本授業では3.00という高い値であった。また、Q3「自己評価」は学科平均値が3.45に対し、本授業では3.50という値であった。一方、Q9「授業の満足度」について、学科平均が3.48に対し、本授業では3.00と比較的低い評価であった。このことから、学生は熱心に取り組んだものの、課題が重く、進み方が早いという評価が読み取れる。コロナ対策もあってワークショップを控えたこともあるが、今後はもっと双方向授業で学生の興味を引き出し、学生の声を受け止めながら授業を展開したい。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜4限 環境と暮らしB＿(イン以外)【水上　　裕】】
この授業では70分の中間テストを実施し、詳しい解説をしている。他にも複数の重い課題を課して発表会を実施しているが、学生は熱心に取り組むことができ、一定の手応えをつかんだと思われる。授業アンケートQ2「知識・考え方が身についた」において、学科平均値が3.43に対し、本授業では3.75であった。また、Q4「教え方のわかりやすさ」は学科平均値が3.45に対し、本授業では3.75という値であった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【金曜4限 インテリアコーディネーションⅡ＿(イン)【水上　　裕】】
授業アンケートQ3「自己成長の評価」において、学科平均値3.43に対し、本授業では3.57という高い値であった。一方、Q4「教え方のわかりやすさ」は学科平均値が3.45に対し、本授業では3.29という値であり、Q5「興味深さ」は学科平均値が3.47に対し、本授業では3.29という値であった。一定の時間内にプランニングと作図ができるようになる、という目標は達成できたが、次年度は技術マスターだけでなく満足度・充実度が上がるよう工夫・改善する。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
✔	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

資料1:テキスト(インテリアガール),資料2:学習教材(ルーブリック事例)

・関連リンク・別途資料

特になし

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0207	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0407	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0507	インターンシップリテラシー
前期	生活プロデュース	2	30203502	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204002	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	28230001	インテリア設計Ⅲ
後期	生活プロデュース	2	24234501	インテリアデザインプロデュース
後期	生活プロデュース	2	26224501	環境と暮らしB
後期	生活プロデュース	2	25205003	色彩学C
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R5225501	インテリアコーディネーションⅠ
前期	生活プロデュース	1	R5290001	インテリア実技
後期	生活プロデュース	1	R5290501	インテリアコーディネーションⅡ
前期	生活プロデュース	1	26224502	環境と暮らしA

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1･2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	就業力育成（生活）	1	R5BU0106	私のキャリアデザイン
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	26224501	環境と暮らしB
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R5225501	インテリアコーディネーションⅠ
前期	生活プロデュース	1	R5290001	インテリア実技
後期	生活プロデュース	1	R5290501	インテリアコーディネーションⅡ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	教授
教員氏名	吉川　光子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は生活プロデュース学科の教員として、食物、食生活に関連する科目を中心に担当している。
専門教育科目の「食生活と健康」「食品と調理」「クッキングⅠ」「クッキングⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「食の企画」「食の情報発信」は主にフードコースの学生が受講する科目である。また学科共通科目の「ライフスタイルマネジメントの基礎」「ライフキャリアプランニング」を他の専任教員と共に担当している。加えて2023年からは総合ビジネス・情報学科の学生向けのリベラルアーツ科目「生活に役立つ教養とSDGs」の中の2コマを担当している。
2024年度の担当科目は、別記「7.担当授業一覧」のとおりである。
私の責務は、学生が食物と食生活について適切な知識や技能を身につけ、生涯にわたり、健康で豊かな食生活を実践できるように教育することである。また、学ぶことの楽しさ、その価値に気づかせ、卒業後にも常に学び続ける姿勢をもつよう教育することである。それは知識を与えることにとどまらず、演習や実習を通し学生自らが考えて動けるよう環境を整え、学生が総合的な力をつけるための学びの機会を整えることが重要と考えている。フードコースの主任として、他の教員との協力のもと、その責務を果たしている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学での教育活動において次の3つを重視している。
1. 食に関して広い視野と柔軟な思考をもち、諸問題に対応できる人を育成する。
2. アクティブラーニングの場を整え、学生が周囲の人々とコミュニケーションをとりながら学び、成長する過程をサポートする。
3. 学生自身の学びに対するモチベーションを高めることで「主体的な意欲・行動」を引き出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の理念を実現するため、毎年授業内容と授業展開を見直し、同じ内容でも伝え方の工夫を重ねている。

★「クッキングⅠ」「クッキングⅡ」

フードコース1年生が受講する科目であるが、学生が主体的に参加して調理の手法を学ぶだけでなく、グループでコミュニケーションをとりながら作業を行う。日常の食事から、初めて食べる異国の料理、行事食まで「自分が作る」経験をし、「食」に関する視野を広げるとともに、「食」が身体だけでなく精神面に影響を及ぼすこと、社会的側面、自分と異なる他者の嗜好について、など様々な気づきを得られるよう図っている。

食に関する知識と技能の定着には、習った知識を他者に教える、料理を作って共食する、といった行為が効果的であるため、家庭での調理を推奨し、学生が自然に繰り返し学習できるように努めている。調理の工程の一部を自宅で予習、復習するためのオリジナル動画の作成およびe-ラーニングでの配信を行い、教材として使用した。

★「食の企画」

フードコース2年生が受講する専門科目である。食に関する企画として与えられた課題に沿って考え、試作を経て練り上げ、わかりやすいプレゼンテーションで他人に提案することについてアクティブラーニングで学ぶ。2021年度から、広報部からの提案を受け「オープンキャンパスに来校する高校生に提供する菓子を考案する」企画に取り組んでいる。これは課題が提示され外部との連携のもとに進む点で、学内でのPLB（プロジェクトベースラーニング）ともいえる。授業の担当者としては、学生が作った菓子を教職員に食べてもらいアンケート評価に答えてもらう、実務に携わるゲスト講師を招くなど、学生たちの意欲を高め、生じた問題点を主体的に解決できるようサポートしている。

★「生活に役立つ教養とSDGs」

2023年度からの授業で「食生活とSDGs」のテーマで2コマを担当した。SDGsの入門としては扱いやすい「食品ロス」について取り上げたが、対象者が総合ビジネス・情報学科の学生であることから生活プロデュース学科生向けの内容よりも、身近な「食生活」全般について意識を向けられるよう配慮した。また自分で調べてスライドを作成する課題を課すことで、興味の幅を広げ、得た知識が定着するよう図った。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

学生による授業評価アンケートの結果の数値は、全体的に学科の平均付近であった。以下いくつかの科目について今年度の振り返りを記した。

★「クッキングⅠ」「クッキングⅡ」

これらの調理実習科目は、例年は授業評価アンケートの結果で満足度が高い傾向にあったが2023年は満足度がやや下がっていた。教員から見た2023年度の良かった点と良くなかった点は以下のようであった。

① 受講人数が少なく、教員の目が届く状態であったために、失敗することが少なかった。

② ていねいに盛り付けし、料理の出来上がりは良かった。毎回の振り返りでは「美味しかった」「今まで避けていたが食べられた」など自己評価もよかった。

❸ グループでのコミュニケーションがなかなか取れず、協力し合う雰囲気が生まれなかった（特に前期）。

❹調理に慣れない学生が多く、簡単な操作でも時間がかかっていた。その結果、時間内に終わらないことがあった。

今後は、学生同士が自然とコミュニケーションを取れるような仕組み作りが課題である。

★「食品と調理」

この科目は、2020, 2021年度はオンラインで実施し、2022年度から再び対面での講義となった。対面だからこそできる演習（例えば、ゼリーが美味しく見えるランチョンマットの色を選ぶ、ブルーベリーの色が酸性とアルカリ性で変わることを実験するなど）をいくつか準備し、学生たちに体験させた。その結果「プリント重視だけでなくたまに実際に物をみて観察することがあって話を聞くより実際目で見ることが出来てわかりやすかったです。」などの肯定的なコメントが多く見られ、効果があったことがうかがえた。また、2022年度は「進行の速さが適切でなかった」とした学生が20%いたことを2023年度の改善点として心がけた結果、自由記述には「講義のスピードが丁度良く、分かりやすかった。」など複数のコメントがあり、おおむね改善できていたようである。

★「生活に役立つ教養とSDGs」

授業の期末課題では、一番印象に残っているテーマとして「食品ロス」と答えた学生が多くみられた。例えば「私が1番印象に残っているテーマは「食品ロス」についてです。日本の食品ロスは事業活動も多いですが、家庭での廃棄物も多いということを知ることが出来ました。フードバンクや手前取りといった活動が紹介され、実際に手前取りをセブンイレブンで見かけたため、手前から取るようにしました。（後略）」など、自分の生活を変化させることができた様子も書かれており、授業のねらいに沿った学びができているようであった。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

学内で開催される FD 、SD研修にはほぼ毎回参加している。また、授業参観週間には他の授業を見学し、参考にできる点を探している。毎年のシラバス作成時には、前年度の授業評価アンケートの結果や学生が書いた振り返り、直接の対話で得られた情報をふまえ、授業内容や構成についてアップデートしたシラバスとなるよう努力している。

今後の目標
1）短期的な目標
1.「わかりやすさ」を学生側の視点から検討する。
2.「役立ち感」が得られる中身の工夫。
3. 講義、実習に落ち着いて取り組める環境づくり。
4.　オンライン（オンデマンド）教材の質の向上

2）中・長期的な目標
1.フードコースの科目間の連携をはかり、2年間の学びを通し総合的に効果が上がるように履修モデルを整える。
2.地域に貢献できるような学びの導入。
3.学生や卒業生が学年を超えて互いに関わりをもち、学び合い、高め合える機会を提供する。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【金曜1・2限 クッキングＩＡ／ＩＢ(フド)吉川　光子】
クッキングＩＡは、1年生のフードコース必修の調理実習であり、例年、アンケート評価は高めのポイントである。今年度は受講生が少なく、選択で受講するＩＢクラスと統合しても7名であったため、従来よりも個々の学生にていねいな指導をすることができた。しかし、アンケート評価で満足度に関するポイントは下がっていた。原因を考えると、調理経験がたいへん少ない学生が多く(コロナのために高校で実習を全く行っていないケースが大半)、とくに始めのうちは調理から後片付けまでの一連の工程が負担に感じられるようであった。一方で、Q3授業への取り組みは回答者全員が”とても積極的に取り組んだ”と答えていることから、後期(クッキングⅡ)では、自身の成長を実感できるような授業になるよう意識していきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜2限 食の企画と演出(フド)吉川　光子】
この科目はフードコース必修科目で、これまでに習得した知識やスキルを応用して取り組む演習科目である。今年度は昨年度よりも高いポイントになり、学科平均よりも高いポイントであった。授業の前半は「OCで高校生に配布するお菓子を考案する」、後半は「地元野菜をつかった料理を提案する」a、という課題にグループで取り組んだ。高いポイントとなった理由としては、グループで話し合い、検討する時間を昨年度よりも多く取ったこと、ゲスト講師から専門的なアドバイスをもらえたこと、そして作ったものを教職員が試食する機会を設け、”美味しい”という評価を多く得られたことなどが考えられる。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜3限 ゼミナールⅡ＿全【吉川　光子】】
今年度のゼミナールⅡは学科平均よりも高い評価であった。考えられる理由としては2つある。湘北祭が対面で実施され、ゼミの活動として全員で取り組み、達成感を感じることができた点。そして教員としての取り組みとしては、ゼミ生全員との個別面談を前期2回、後期1回行った点である。特に後期は、これまでは就職活動を継続している学生とだけ面談をしていたが、今年は、15名全員と行った。特に差し迫った用件や話題はなくても、一人一人とコミュニケーションをとることで、ゼミの全体的な雰囲気づくりにも効果があったように感じられた。これからも継続していきたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜1限 食品と調理＿(フド他)【吉川　光子】】
この科目は、平均と同程度の評価であったが、前年度よりもポイントが下がっていた。昨年と同様に、演習(味わって比較する、見て触って観察する)などを取り入れ、他の食物系科目を受講していない学生でも理解しやすい授業になるよう準備し実施した。この点は「この授業でよかったところ」にも多く挙げられており、内容の理解に一定の効果があったことが明らかだった。また、昨年の反省を踏まえ、授業のスピードに配慮した点もよい評価であった。にもかかわらず全体的な評価が上がらなかった理由としては、スライドを用いた講義中心の科目であり、メモを取りながら集中して聴くことに学生が負担に感じたことが推測できる。次年度は、学生の側からの発言を促したり、さらに演習も取り入れ、興味を引く内容になるように構成を考えていきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203504	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204004	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	26222001	食の企画と演出
後期	生活プロデュース	2	R2220501	食品と調理
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	24238701	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1	24238702	接客サービス特講
前期	生活プロデュース	1	R3216001	食生活と健康
前期	生活プロデュース	1	R5216501	クッキングＩＡ
前期	生活プロデュース	1	R5216502	クッキングＩＢ
後期	生活プロデュース	1	R5221501	クッキングⅡ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1･2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203503	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204003	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	R5222001	食の企画
後期	生活プロデュース	2	R2220501	食品と調理
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R3216001	食生活と健康
前期	生活プロデュース	1	R5216501	クッキングＩＡ
前期	生活プロデュース	1	R5216502	クッキングＩＢ
後期	生活プロデュース	1	R6291501	食の情報発信
後期	生活プロデュース	1	R5221501	クッキングⅡ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	講師
教員氏名	泉屋　咲月

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科の教員として、主に日本語に関する授業を担当している。
　2024年度の担当科目は、別記「7. 担当授業一覧」のとおりである。
・「日本語リテラシーⅠ」:リベラルアーツ科目の必修科目である。当該授業の具体的到達目標は、短大での学習に役立つ日本語運用能力、社会人として必要な日本語運用能力の基礎を身に付けることと、就職活動に不可欠な基礎的語彙力を向上させることである。
・「日本語リテラシーⅡ」:「日本語リテラシーⅠ」とともにリベラルアーツ科目の必修科目である。当該授業の具体的到達目標は、社会人として必要な日本語運用能力の基礎を身に付けることと、就職活動に不可欠な基礎的語彙力を向上させることである。
・「日本語コミュニケーション」:リベラルアーツ科目の必修科目である。2024年度は、①「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」の成績がいずれかが「A」以上であること、②1年次の通算GPAが2.0以上であることという履修条件がある。当該授業の具体的到達目標は、社会人として必要な日本語運用能力を向上させることと、語彙力・読解力だけでなく、感受性や表現力を磨くことで、より魅力的な「伝え方」を身につけることである。
・「言語表現とコミュニケーション」:総合ビジネス・情報学科オフィスワークコースの必修科目である。当該授業の具体的到達目標は、「ことば」に関するトレーニングをくり返すことによって、表現力やコミュニケーション能力を向上させることと、グループワークを通じて相手の意見を理解した上で、自分の意見を的確に相手に伝える能力を身につけることである。
　私の教育の責任は、上記の教育活動を通じて、本学学生の短大での学習や就職活動、そして将来的に社会人として生活していく上で必要とされると考えられる日本語運用能力を修得させることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の点を重視している。
・学生が主体的に学べるように指導すること。
　学生が問題を解決しようと主体的に思考することが重要だと考えるため、グループワークや発表課題を通じてそうした姿勢を養えるよう指導することを心がけている。
・学生が専門知識を修得したり就職活動を行ったりする上で必要とされる日本語運用能力を身に着けること。
　思考力の基礎となる日本語運用能力を向上させることができるように、「読む」「書く」トレーニングを反復的に行っている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考えを実現するため、担当する授業において、次のような方法を用いている。
・「日本語リテラシーⅠ」：短大での学習に役立つ日本語運用能力、社会人として必要な日本語運用能力の基礎を身に付けることができるよう、文学的な文章と説明的な文章の両方を扱って「読む」練習をさせている。「書く」練習においては、新聞記事や映像作品などを幅広く扱うようにしている。また、就職活動に不可欠な基礎的語彙力を向上させるために、漢字の問題を中心とした小テストを毎週行っている。さらに、データベースや図書館の活用法についても指導している。
・「日本語リテラシーⅡ」：社会人として必要な日本語運用能力の基礎を身に付けることと、就職活動に不可欠な基礎的語彙力を向上させることを目指し、SPIテストの言語分野を扱った小テストを毎週実施している。また、成人年齢が18歳に引き下げられたことなどに鑑み、本年度の授業の「読む」練習では契約書などの実用的な文章を積極的に扱っていくこととした。
・「日本語コミュニケーション」：映像作品のストーリーを文章でまとめさせたり、キーワードと自分の性質の関わりを言葉で説明させたりすることで、言葉によって説明し、物事を伝える練習をさせている。比較的日本語運用能力の高い学生が履修しているため、細かく指示を出すというよりは、ある程度は履修者の主体的な取り組みに任せている。その上で、学生が自分なりに取り組んだ結果から、見本を示したり、課題のねらいを解説したりするようにしている。
・「言語表現とコミュニケーション」：ゲーム的な要素を取り入れたグループワークを行ったり、発表をさせたりそれに対するコメントのフィードバックを行ったりすることで、「伝える」ことのむずかしさを意識できるように指導している。その際、身振りや手振り、画像資料などには頼らず、あくまで「言葉」で説明し伝えるということを重視して課題を与えている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

（2024年度着任のため記載なし）

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、５－２に記載）

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜2限 日本語リテラシーⅠ（観留M）泉屋 咲月】
メール提出の課題について、メールの送信履歴に提出の記録はのこるため、返信していなかったが、不安な学生もいたようなので、返信したい。

■後期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜1限 日本語リテラシーⅡ＿ファフド【泉屋 咲月】】
授業の課題について、指示を理解射ている学生とそうでない学生がいた。指示を理解できているかどうかを確認し、理解できていない場合にはより詳しい説明をするようにしたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜2限 日本語リテラシーⅡ＿P【泉屋 咲月】】
eラーニングで課題を設定する際に、課題についての説明も記載するようにしたい。また、教室のモニタの大きを考慮して、見やすいパワーポイントスライドを作成したい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜3限 日本語リテラシーⅡ＿c/4【泉屋 咲月】】
作文に取り組ませる機会は複数回あるので、履修者にテーマを決めさせる回も設けたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜4限 日本語リテラシーⅡ＿医【泉屋 咲月】】
作文課題を複数回設けたことと、就職活動に関する内容を取り入れたこと。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0005	日本語リテラシーⅠ
前期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0006	日本語リテラシーⅠ
後期	リベラルアーツ（総合）	1	22LA0205	日本語リテラシーⅡ
前期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0009	日本語リテラシーⅠ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0208	日本語リテラシーⅡ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0210	日本語リテラシーⅡ
後期	リベラルアーツ（保育）	1	22LA0211	日本語リテラシーⅡ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（総合・生活）	2	31LA7001	日本語コミュニケーション
後期	リベラルアーツ（総合・生活）	2	31LA7002	日本語コミュニケーション
前期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0008	日本語リテラシーⅠ
前期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0009	日本語リテラシーⅠ
前期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0010	日本語リテラシーⅠ
前期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0011	日本語リテラシーⅠ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0208	日本語リテラシーⅡ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0209	日本語リテラシーⅡ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0210	日本語リテラシーⅡ
後期	リベラルアーツ（生活）	1	22LA0211	日本語リテラシーⅡ
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0206	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0406	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0506	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	1	22547001	言語表現とコミュニケーション
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	講師
教員氏名	奥脇　菜那子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科の教員として、主にファッション・衣生活に関する授業を担当している。2023年度の担当科目は、別記のとおりである。

ファシッションを通して自分自身や周りの人たちの生活をより豊かなものにすることができる人材を育成することを目指し、ファッション分野の知識や技能を修得するとともに、学んだことを生活の中で活かすことができるような授業展開および課題設定に取り組んでいる。また、他者と関わりあいながら、協創・共創する力を養うことを重視している。
「色彩学」および「パーオソナルカラ―入門」では、色彩学の理論を自分自身の生活やビジネスシーンで生かすことができるようになることを目指し、学んだことを実生活に取り入れることができるような課題設定を行っている。
「ファッション基礎実験」ではグループワークにより仲間と共に試行錯誤しながら実験に取り組むことにより、協力してや課題に取り組む力や、自ら考え課題を解決する力の育成を目指して指導に当たっている。
「リビングケア」では、ファッションを取り巻く社会問題を自分事として考え、洗濯などの身近な生活行為から問題解決に取り組むことができるようになることを目標としている。

また、課外活動では、学友会執行部イベント企画部門の顧問をしている。学内イベントの企画・運営を通して学生たちが仲間と協力して何か創り上げることの喜びや人と人とが関わりあうこと大切さを感じることができるような活動になるような指導・支援に努めたい。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、自分自身や社会において関る人々の生活課題をとらえよりよい生活を創造することができる「生活プロデューサー」を育成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視していく。
1）ファッションを通して、自分自身や周りの人たちの豊かな生活を創造することができる人材を育成すること。
2）他者と関わりあいながら、協創・共想・共創する力を身につけること。
3）試行錯誤を繰り返し、自ら考え課題を解決する力を養うこと。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を取り入れたいと考えている。

1)「パーソナルカラー入門」では、色彩学の理論を生活やビジネスシーンで生かすことを目指している。自分自身や身近な人のパーソナルカラー分析やファッションコーディネートなどを課題とすることで、学んだことを実生活に活かしながら体得することができるような課題を設定している。また、グループワークにおいては、好みのファッションのテイストが異なる相手とパーソナルカラーの分析やファッションコーディネート課題に取り組むことで、身近なところから、異なる意見や価値観を理解することやお互いの意見を活かしあいながらアイデアをブラッシュアップすることの大切さを学ぶ機会となるよう工夫していく。

2)「色彩学」においても、学修したことを実生活に活かしながらカラーコーディネート力を磨くことができるよう、通学時のファッションコーディネートに配色の技法を取り入れ、コーディネートのポイントを発表させる機会を設けている。

3)「ファッション基礎実験」では繊維・衣服材料に関する基礎知識および技能の取得だけでなく、グループワークにより仲間と共に試行錯誤しながら実験に取り組むことにより、協力してや課題に取り組む力や、自ら考え課題を解決する力を養うことができるように指導に当たる。実験中には、「想定される実験の結果」や「効率よく実験をすすめるためにはどうしたらよいか」、「実験結果から分かったことや考えたこと」などについて話し合うように助言を行い、実験に失敗したときは、「失敗だった」で終わらず、なぜそのような結果になったのか、失敗からわかること、学ぶことができることを見つけ、次回の課題に活かすことができるようサポートしていく。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

24年度の学生による授業評価アンケート結果は、「ファッションビジネス論」について「成長できたか」3.7ポイント、「授業の分かりやすさ」3.7ポイント、「興味深さ」3.8ポイント、「ファッションデザイン論」について「成長できたか」3.75ポイント、「授業のわかりやすさ」3.75ポイント、「興味深さ」3.75ポイントと学科平均と比較し高い評価を得た。座学だけではなく、自分たちで考え手を動かす体験型の学びを多く取り入れたことにより、達成感とともに理解が深まり、アンケート結果の向上につながったと推察する。
「リビングケア」では「今後の生活に役立つ知識が得られた」という主旨のコメントが複数得られたことから、社会課題を自分ごととしてとらえ自分の生活の中でできることを取り組んでいく姿勢を養うことにつながったと考える。
また、複数の科目において「講義科目でも演習があり楽しくわかりやすい」という主旨のコメントが多数得られた一方で、講義科目では「眠たくなってしまう」という回答もいくつか見られた。この点に関しては、メリハリのある授業の構成づくりや、座学の中でできるアクティブラーニングを取り入れることなどによって改善していく必要がある。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、以下の4点について取り組むこととする。
1)受講学生とのコミュニケーションを丁寧に行うことを心がける。大福帳やGoogleフォームなどのツールを効果的に使用し、学生の理解度を把握するとともに、質問や課題点を拾いあげフィードバックするように努力する。
2)相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に参加し、他の教員の授業を見学するとともに、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用し、ブラッシュアップを図る。
3)IDを取り入れ、学生たちが学習成果を実感しやすい授業設計を行う。
4)ファッションと持続可能性について学ぶために、学会や学外研究会に積極的に参加する。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
I.短期目標
1)学生が主体的に学ぶことができる授業を構成する。
2)学生が学習成果を実感しやすい授業を設計する。
2)授業やその他の学生生活において、学生同士意見を交わし合いお互いのアイデアを活かし合う雰囲気をつくる。
3)SDGs、特に衣生活と持続可能性に関する学びを取り入れる。

II.長期目標
1)男女共学に向けてジェンダーレスな教育内容を検討する。
2)社会的課題を自分ごととして捉え、課題解決に向けて生活を通して実践することができる人材を育成していく。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜3限 色彩学A(ファ(こど))奥脇 菜那子】
色彩検定試験対策として、特に理解しにくい分野について複数のオンデマンド動画を作成し繰り返し視聴できるようにした。動画、対面、実習を織り交ぜ、検定対策科目とはいえ単調にならないように工夫したことが、学生からの前向きなコメントにつながったと考える。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【金曜4限 パーソナルカラー入門((フドイン医))奥脇 菜那子】
初年度科目であり先読みが足りず、シラバスと内容がややズレてしまう部分があったので改善したい。また、実習用カラードレープなどの教材にも不足があったので、次年度に向けて再検討していく。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜2限 パーソナルカラー入門((ファこど))奥脇 菜那子】
初年度科目であり先読みが足りず、シラバスと内容がややズレてしまう部分があったので改善したい。また、実習用カラードレープなどの教材にも不足があったので、次年度に向けて再検討していく。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【月曜2限 ファッション基礎実験(ファ(他))奥脇 菜那子】
大半の学生が予習復習に時間を割かなかったようであるため、次年度は学習習慣の定着を促すような課題を設定したい。
ファッションコースの学生たちにとって、マテリアル分野は理解しにくい部分であるが、なるべく実生活と紐付けけて布や繊維の特性を理解しやすいように丁寧に説明した点は高評価につながったようであるので継続していく。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜3・4限 ゼミナールⅠ(全)太田　奈緒】
多くの学生が時間外にも製作活動に時間を割いていたにもかかわらず予習復習はしなかったという回答が多かったので、学生たちの自己肯定感を高めるような声かけを意識的にしていきたい。また、自分に似合うものを知りたい・着たいという学生たちのニーズが高いようなので、次年度はパーソナルスタイリングについても扱いたいと考える。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜2限 ファッションデザイン論＿ファ（他）【奥脇 菜那子】】
講義内容に関連するワーク（パターン製図や立体製作、デザイン画の制作など）を多く取り入れたことで、「わかりやすい」「楽しい」などの反応が得られた。少人数であったことから一人ひとりに目が届き「わかる」「できる」を体験させられた点も高評価につながったと考える。今後も一層工夫を重ねていきたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【】
講義内容に関連するワーク（ファッションコーディネートや生地見本レポートの製作など）を多く取り入れたことで、「わかりやすい」「楽しい」「言葉だけじゃわからないことが理解できる」などの反応が得られ、アンケート結果は良好であった。一方で授業の進度は遅れがちであり、ファッション販売能力検定2級の合受験者を合格に導くことができなかった点が悔やまれる。講義内容を精査し、重要な点をおさえながらも、体験型の学びを取り入れる時間を引き続き確保できるよう工夫したい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【金曜4限 リビングケア＿（ファ他）【奥脇 菜那子】】
昨年度より受講者が少なくなったため、今年度は演習を増やし、実践的な内容とした。演習について、「理解しやすく楽しい」「役立つことを学べた」などに良好な回答を多く得ることができた。一方で、座学では眠くなってしまっている学生も見られたので、学生への発問や、確認クイズを増やすなど、学生がより参加しやすい授業になるよう改善したい。また化学的な内容についても理解しやすくなるよう、説明方法やスライドの見せ方を工夫したい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203508	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204008	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	1	25205001	色彩学A
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22213001	リビングケア
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R5208501	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	1	R5208502	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	1	28205501	ファッション基礎実験
後期	生活プロデュース	1	22207001	ファッションデザイン論
後期	生活プロデュース	1	28266001	ファッションビジネス論

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1･2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203507	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204007	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	1	25205001	色彩学A
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22213001	リビングケア
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R5208501	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	1	R5208502	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	1	R6205501	テキスタイルの基礎
後期	生活プロデュース	1	22207001	ファッションデザイン論
後期	生活プロデュース	1	28266001	ファッションビジネス論

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	講師
教員氏名	清水　一毅

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科の教員として、主に心理学に関する授業を担当している。
2023年度の担当科目は、別記のとおりである。

心理学は複雑化する社会で生活するなかで、基盤となる人間関係や物事のとらえ方、学習の理論といった内容を含んでいることから、ただ知識を獲得するのではなく自分と関連付けて活用できるよう指導していく。
「心理学」では心理学の多岐にわたる分野の概要を伝えるとともに、日常生活にちりばめられている心理学の理論を知ることで、心理学を身近に感じることを目標としている。
「発達心理学」では、ひとは一生をかけて発達するという生涯発達の視点に立ち、これまでの自分、現在の自分を発達的観点からとらえることで、自己の認識を深めることを目標としている。
「自己理解の心理学」では心理学で用いられるワークを通して、自分自身のパーソナリティや思考の癖、人間関係について気付き、そこから自己理解を促していけるよう指導する。
「子どものワークショップ演習Ⅱ」では、1年時に得たワークショップに関する基礎知識を応用し、学生たちが子ども向けのワークショップを自ら考え企画し実施する中で、目的を設定しその目標に適した活動を設定する力を伸ばしていく。また、リハーサルを何度か行い、改善点を考えることで、PDCAサイクルを意識した活動の展開を行えるようにする。
「ゼミナール」では、学生が自ら考えた活動を実行するなかで、目的を設定し、その目的に対しての手段を選択する。その過程を検討し、実践していくことを通じて自ら考え、行動できるようになることを目的としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会のなかで自分らしく生きる力の基礎を確立する助力になることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1）他者との関わりの中で、自分を知り、自己を確立していくこと。
　他者と関わり合うことで、自分のコミュニケーションの取り方や物事の考え方、自分と他者の違いに気づくことができる。このような気づきは自己分析を行ううえでも役立つ。

2）知識を覚えるのではなく、必要な情報を自ら得て活用できる力を育めるように指導すること。
　現代社会において情報機器の発達から、知識を多く記憶することよりも、自ら情報にアクセスし、正しい情報を判断して収集し活用することが重要であると考える。

3）自ら考え、行動する力を養うこと。
　興味関心のあることに対して挑戦することは、自分の知識や経験の幅を広げるためにとても大切なことである。そのため、少しでも「やってみようかな」と悩んでいることには積極的に取り組み、いろいろな経験を得られるよう促していきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行おうと考えている。

1）「心理学」および「自己理解の心理学」では、ワークや実験を取り入れ、心理学の世界について体験的に触れられるよう工夫するとともに、心理学の理論が日常生活でどのように活かされているか実例を交えて紹介する。体験的に得られた学びや自分の考えを周囲の人と共有し合うことで様々な考え方に触れる機会を作れるよう意識していく。また、授業中に調べ学習を取り入れることによって教員から教えられるだけではなく、自ら調べ学ぶこと、調べた内容を発表することができるように工夫していく。

2）「発達心理学」では、授業の初めに本時に学ぶ内容に関わるクイズを行い、授業内容の予測と学びの姿勢を準備できるよう工夫した。発達理論について学び、その内容と自分を照らし合わせることを通して、学んだ情報を自分に関連付ける能力が育まれるよう工夫していく。また、映像資料を用いることで、学んでいる内容をより身近に感じられる機会を作るようにする。

3）「子どものワークショップ演習Ⅱ」では、できるだけ細かい指示をせず、自ら考え、問題点に気づき、修正することができるよう心がけている。

4）「ゼミナール」では、活動計画を作成し実行することで自ら考え動くことができるよう指導していく。また、実行後に振り返りの時間を持つことによって次回の計画に活かせるようにする。個人での計画やグループでの計画を織り交ぜることによって、段階的に行えるよう工夫していく。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の学生による授業評価アンケート結果では、すべての授業で3.3ポイント以上であり、比較的高い評価であった。「心理学」および「自己理解の心理学」に対する自由記述において「実験が多く楽しみながら出来たので、より学びやすい環境で学習出来た。」「ワークが多かったので、分かりやすく心理について知ることができた。」とあった。これは、ワークや演習を毎回取り入れていたことが、学びに関する楽しさにつながったからではないかと考える。また、「発達心理学」では「知識のない状態で、最初に予想して考える時間があり同じ時間で答え合わせもしてくれるので分かりやすかった。」「身近な例や分かりやすいお話をしながら教えてくださったので、授業に苦手意識を持つことなく楽しんで受講できました。」との記述があり、意識して行なっていた授業時間内での予測と学びから知識を得ることができていたのではないかと考えられる。
しかし、SDGsの観点から紙資料の削減のためスライド資料をプリントして配らなかったため「授業スピードが早く、ノートをとるのが追いつかない」「授業資料を早めにアップロードしてほしい」といった意見が見られた。色を使い分けるなど授業の要点を明示したスライドの作成や、授業後すぐにE-ラーニング上へ授業資料をアップロードすることでより深い学びができるように配慮したいと考える。

学生支援については、学生と一緒にCS課を訪ねることで就職活動の支援をしたことが成果としてあげられる。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用したりすることで授業内容を構成する手がかりとしている。また、新しい知見を学ぶために、関連書籍や論文を閲読している。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

Ⅰ. 短期目標

1）演習用ワークの種類を増やし、学生がより興味を持って取り組めるよう工夫をする

2）担当科目の内容にDX教材を取り入れる

Ⅱ. 長期目標

1）生活や仕事につながる資格の検討と取り入れ

2）地域連携のできる内容の導入

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜3限 心理学A(こど(他))清水 一毅】
理論を学習するだけでなく、より体験的な学びができるよう、簡易的な心理実験や心理テストを授業内に多く取り入れることにより積極的に授業参加ができ、学びを深めることができたと考えられる。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜2限 心理学B((こど以外))清水 一毅】
受講学生が多かったことや、受講者数に対する教室の大きさが合っていなかったこともあったためか、授業内課題を設定したり、ワークを多く取り入れたりしたが、一部学生における積極的な取り組み姿勢を確保することが難しかった。教室の大きさを受講者数に合わせることやオンデマンドコンテンツを積極的に利用することで、学生の取り組み姿勢の改善につなげていけたらよいと考える。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜1限 私のキャリアデザイン(ファフドイン)清水 一毅】
授業ごとに違うグループを作り、コミュニケーションを重視した課題解決型ゲームを用いたイントロダクションを行ったことで、その場に適した対応をする力が身につけられたとの意見があった。また、グループワークを中心とした内容を多く取り入れることで、一人ではなく複数人で就職や仕事について考える機会をつくることができた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜3限 子どものワークショップ演習Ⅱ((こど他))清水 一毅】
学生が主体的にワークショップの企画・運営を行えるよう、指示や助言は最小限にとどめ、学生個人およびグループで考え、活動する時間を多く設定した。そのため、学生一人一人がそれぞれ達成感を得ることができたのではないかと考えられる。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜4限 発達心理学＿こど(他)【清水 一毅】】
授業の初めに本時の授業内容にかかわる知識について問う「予想クイズ」を行い、本時の授業でどのような内容について学ぶかについての確認や、これから本時の中で学ぶ知識についての予測および準備ができるようにした。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜2限 自己理解の心理学＿(フドイン医)【清水 一毅】】
毎回の授業で演習や心理検査を取り入れることにより、客観的に自己理解を深められるようにした。また、設問に答えて数値として結果が出るような検査だけではなく、自由に作文したり、作品を制作する過程で見えてくる特徴から自己理解を深める活動を取り入れることで、自分で自分を見つめ直すきっかけづくりができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【月曜4限 発達心理学＿こど(他)【清水 一毅】】
授業資料をSDGsの観点から印刷・配布しなかったため、ノートを書く時間が多くかかってしまった。また、復習のためにE-ラーニング上に授業PPTを掲示していたが、掲示までの時間がばらばらだったため、学生がE-ラーニングを確認した段階で掲示できていない場合があった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜2限 自己理解の心理学＿(ファこど)【清水 一毅】】
専門的な内容を取り扱っていたため、「授業の内容によって、難しすぎて理解ができなかったときがあった」との意見があった。できるだけかみ砕いて説明し、専門的になりすぎてしまうために伝える必要のないような部分を割愛するなどの工夫が必要であると感じた。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0208	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0408	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0508	インターンシップリテラシー
前期	就業力育成（生活）	1	R5BU0105	私のキャリアデザイン
前期	生活プロデュース	2	30203507	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204007	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	22241002	心理学B
後期	生活プロデュース	2	26236501	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	2	26236502	自己理解の心理学
前期	生活プロデュース	2	22241501	子どものワークショップ演習Ⅱ
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	22241001	心理学A
後期	生活プロデュース	1	22235501	発達心理学
後期	生活プロデュース	1	22237501	子どものワークショップ演習Ⅰ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（総合）	1･2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0206	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0406	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0506	インターンシップリテラシー
前期	就業力育成（生活）	1	R5BU0105	私のキャリアデザイン
前期	生活プロデュース	2	30203506	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204006	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	22241002	心理学B
前期	生活プロデュース	2	26236501	自己理解の心理学
前期	生活プロデュース	2	26236502	自己理解の心理学
前期	生活プロデュース	2	22241501	子どものワークショップ演習Ⅱ
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	22241001	心理学
後期	生活プロデュース	1	R6237501	子どものワークショップ演習Ⅱ
後期	生活プロデュース	1	26236503	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	1	26236504	自己理解の心理学

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	生活プロデュース
職名	講師
教員氏名	二見　総一郎

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学生活プロデュース学科の教員として、主に、子どもや家族に関する科目を担当している。2023年度の担当科目は別記のとおりである。
子どもサービスコースの学生たちは、将来子どもと関わりのある職業を志望している学生が多く、子どもやその家族に関する基礎知識の習得が望まれている。また、生活プロデュース学科全体の学生たちにおいては、ディプロマポリシーにおいて「コミュニケーションを円滑に行うことができる」ことや「多様な社会で活躍できる」ことが望まれており、そのためには、日々の生活や自分の生活体験を学問的な視点や国際的な視野から相対化して理解し、ダイバーシティを尊重する態度の育成が重要となる。以上の状況を踏まえて、私は各科目で以下の点を重視して教育を行っている。
「児童福祉論」では、現在の子どもを取り巻く様々な問題について検討することを通して、学生自身の生活を相対化するとともに、子どもにとって望ましい福祉の在り方とはどのようなものか、考える視点を獲得することを目指している。
「生活とSDGs」では、17個の世界共通の目標を学習することを通して、国際的な広い視野で問題を考えて自分の生活範囲から解決に取り組んでいく「Think grobally, Act locally」の技法を身に着けることを目的としている。
「家族援助論」では、家族のライフステージの変化について学びながら、家族に起きている現象を社会的・文化的な状況の中で捉え，さまざまな環境との相互関係の中で人が生きているさまを理解し、家族に関する問題について自分事として考える視点を獲得することを目指している。
「ゼミナールⅠ」および「ゼミナールⅡ」では、他者と協同して企画を立て実践し振り返ることを通して、コミュニケーション力や実践力を獲得することを目指している。また、様々な企業・自治体とのコラボを通して、実際に子どもやその家族とふれあう機会を設け、知識だけでなく社会に出たときに「ほんとうに役立つ力」の獲得を目指している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1)学生の「他者と共生する力」を高める教育

学生が卒業後に生きていく社会は、様々な背景を持った人たちが共に生きている社会である。本学の教育理念である「社会でほんとうに役立つ人材」とは、この多様な人たちが生きていく社会において、自分と異なる他者を理解しようとし、コミュニケーションを取り、協力しながら生きていく力を持った人であると解釈できる。そのため私は、2年間の大学生活を通して、学生たちが、様々な背景を持つ人たちの多様性について学び、自分も他者も尊重できる「他者と共生する力」を育む教育を重視したいと考えている。

2)学生が安心して学べる環境づくり

2019年度から2021年度の3年間本学で非常勤講師として「キッズスペース論」を担当させていただいた中で、学生たちの少なくない人数が、経済的に不安定な状況にあったり、過去に自分の意見を認めてもらう経験が少なかったり、学業に対する苦手意識が強かったりと、様々な背景を持っていたことに気づかされた。そのため、学生たちが不安なく学業に取り組めるようにするためにも、わからないことはすぐに相談でき、自分の意見が周囲に受け入れられ、ありのままの自分で肯定されるような、安心して学べる学習環境づくりが重要であると考える。

3)ケアをベースとした教育および学生指導

本学に通う学生たちの中には、家庭の事情や経済的な事情で悩みを持っている学生たちも少なからずいるため、そのような学生の学校における生活をサポートするためには、ケアをベースとした関りが重要である。学生が困りごとを抱え込んでしんどくなってしまわないためにも、困ったときに相談しやすく親しみやすい教員を目指したいと考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、教育の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。
1)「児童福祉論」「家族援助論」では、コメントシートの紹介やICT機器・「Sli.do」というアプリを用いたアクティブラーニングによって、学生同士がお互いの多様な価値観に触れながら、自分の意見が受け入れられる体験をできるよう工夫している。また、内容としても、社会的マイノリティの問題を扱うことにより、多様性にまつわる問題を自分事としてとらえてもらうよう指導している。

2)「生活とSDGs」では、初めて聞いた学生がSDGsの17の目標を難しいと感じることが多いため、視聴覚教材を用いて学習に対する苦手意識を払しょくするよう心掛けている。また、わからないと感じた学生がすぐに声をあげられるよう、ICT機器を用いて自由に発言できる場を設け、安心して学べる環境づくりを行っている。

3)「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」では、ただ一方的に知識を与えるのではなく、学生との双方向のやりとりを通して、学生が社会の問題を自身の問題と関連づけて考えられるよう指導している。またゼミ以外の時間においても、気軽に就活や大学生活の相談ができるよう、日常的な声掛けや一人一人と面談をするなどして、信頼関係を築くようにしている。
すべての授業において、ハラスメントにならないよう、威圧的な態度や強い言葉を用いないことを意識し、学生と対等な関係を構築することを目指し、どんな内容であれ学生の意見をまずは受け入れる姿勢を大切にしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業について、2023年度の「児童福祉論」の授業評価アンケート結果は、「総合的にみてこの授業に満足しましたか？」という項目において「とても満足」が56.3%、「満足」が43.8%と、受講していた全ての学生にとって満足のいくものだとの評価であった。また「家族援助論」においては、「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたと思いますか？」という項目において「とても身についた」が71.4%、「身についた」が28.6%であり、「ゼミナールⅡ」においても「とても満足」が55.6%、「満足」が44.4%と、全ての学生が自分が授業の目的を達成したと感じられるものだった。

このことについて学生のアンケートの記述から分析するに、適切な視聴覚教材の使用、学生のコメントシートへの応答、ICT機器を用いた発言のしやすさにより、授業がわかりやすいものとなっていたことが、学生の満足度につながっていたと思われる。学生アンケートでは「（コメントシートの応答は）自分の考えがひとつの意見として反映され、みんなの考えや意見について聞くことや見ることができるため新しい認識や、振り返りをすることが出来ました」という意見があり、学生が他者の多様な意見にふれながら学べる環境づくりも達成できていたと思われる。

学外活動については、ゼミを中心に、本厚木ミロードとのコラボイベントである「あわてんぼうの湘北サンタとクリスマスパーティ」を企画・実行し、イベントを無事に成功させた。また、イベント後に本厚木ミロードの支配人に来ていただいて反省会を開き、実際に企業で働いているプロとのやりとりを通して学生たちの学びが深まるよう工夫した。

学生支援については、ゼミの所属に関わらず、支援を必要としている学生との面談を定期的に行うことを通して、課題へのアドバイスなどの学習面や、生活面、精神面でのケアを行った。このことは、「ゼミナールⅡ」の「良かったところ」において「先生が親身になって考えてくれたところ」「先生が色々と相談に乗ってくださり、就活から課題までとても心強かった」「就活時、先生の研究室で添削をしてもらったりアドバイスをもらうことが出来たこと。卒業論文を書く時に、先生が見放さずにサポートをしてくれたこと。（的確なアドバイスが貰え進行に行き詰った時にとても助かった）」と記述がある

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善に向けた取り組みとして、まずは授業内でのコメントシートや授業評価アンケートなど、学生からのフィードバックをすぐに反映するようにしている。また、相互授業参観をはじめとしたFD研修にも積極的に参加し、教育改善に役立てている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
Ⅰ.短期目標
1)学生がやりがいをもって取り組める授業づくり
　ゼミナールにおいて、学生から「もっとやりがいがあることにもチャレンジしたかった」という意見があったため、2024年度は学外に出向いて実際の現場を体験したり、グループでプロジェクトに取り組んだりといった、学生の学びを深める探究学習を推進する。
2)企業・自治体などの外部とのコラボレーションの充実
　2023年度は厚木市主催の「あつぎSDGsフェスティバル」、厚木ガス主催の「厚木ガス展」、本厚木ミロードとのコラボイベントであるクリスマスパーティ企画にWSを出展し、学生たちも貴重な体験をすることができた。2024年度はそれをカリキュラム化することで継続・発展させ、より学生たちの学びを充実させる。

Ⅱ.長期目標
1)オンデマンド授業の充実
　DX化を進めるため、IDについて学び、学生にとってわかりやすく学び甲斐のあるオンデマンド授業の作成を実践する。
2)学生のケアの充実
　学生の必要に応じて専門機関と連携をしながらケアをできるシステムの構築を目指す。
3)学生生活の充実の支援
　コロナにより縮小した学生活動が再び盛り上がるよう、学生活動を支援する。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜4限 子ども・教育・社会(こど(他))二見 総一郎】
教員が複数のテーマを用意し、学生が興味のあるテーマごとにグループに分かれて調べ学習を行う形式でアクティブラーニングを取り入れたが、学生のアンケートからは「グループに別れて興味があることを調べて発表するやり方が良かったと思います」といった肯定的な意見が複数見られ、83..3%の学生が「とても満足」と評価していた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜3限 児童福祉論((ファフド))二見 総一郎】
教材として、PPだけでなく視聴覚教材や絵本など様々なメディアを用いたが、「とても適切だった」「適切だった」が合計85.7%となっており、多くの学生にとってわかりやすいものとなっていたことが伺える。また、コメントシートへの応答やsli.doを用いて、匿名で意見を交換できる仕組みをつくったことが、学生にとって安心して意見を表明しながら参加できる授業となっていたと思われる。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜1限 私のキャリアデザイン(こど医)二見 総一郎】
1年生の最初の授業であり、学生たちがまだ友人関係が構築されていないことや、就業力の重要な要素であるコミュニケーション力を身に着けることを意識し、授業の最初にランダムなグループ分けをしてボードゲームなどを用いながら、楽しみつつコミュニケーション力を養う学習を取り入れることで、学生たちがスムーズに大学生活のスタートを切れるようサポートを行った。この取り組みを行ったところ、アンケートでは「とても満足」「満足」合わせて100%となっており、学生たちにとって価値を感じられる授業につながっていたと思われる。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜1限 家族援助論＿(ファフド医)【二見 総一郎】】
授業評価アンケートを見ると、良かった点としてドキュメンタリーなどの視聴覚教材やゲストスピーカーの話を挙げている学生が多く、授業内容の理解にとても役立っていたことがうかがえるため、今後も講義のみでなく様々な教材や形式を用いて学生の興味・関心をひきつけたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
✔	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	就業力育成（生活）	1	R5BU0106	私のキャリアデザイン
前期	生活プロデュース	2	30203506	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204006	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
前期	生活プロデュース	2	25236001	子ども・教育・社会
後期	生活プロデュース	2	30268001	家族援助論
後期	生活プロデュース	2	30268002	家族援助論
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R4288002	生活とSDGs
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	R5289501	SDGsと社会デザイン
前期	生活プロデュース	1	R4288501	児童福祉論
前期	生活プロデュース	1	R4288502	児童福祉論

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（総合）	1・2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	就業力育成（生活）	1	R5BU0106	私のキャリアデザイン
前期	生活プロデュース	2	30203505	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204005	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R5204501	ライフスタイルマネジメント
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
前期	生活プロデュース	2	25236001	子ども・教育・社会
後期	生活プロデュース	2	30268001	家族援助論
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R4288001	生活とSDGs
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	R6288501	子どもと福祉
前期	生活プロデュース	1	R6288502	子どもと福祉

以上